

Garrard 401 の再構成(18)
—カートリッジの交換(3)—

1. はじめに

前報(17)に引き続き Garrard 401 のカートリッジを Ortofon Royal N とし、さらにフォノイコライザーを替えてみます。

2. Garrard 401 の再構成の試聴方法

カートリッジは、前報(16)のとおり Ortofon Royal とし、フォノイコライザーを 47 研 4718 から iFi オーディオの iPhono に交換します。

Ortofon Royal N は、Ortofon のカートリッジのなかでは、もっとも繊細な表現が可能ですが、ゲインが小さいところが課題です。実際に、モーツアルト盤を聴く(23)からモーツアルト盤を聴く(26)までは Marantz7 タイププリ経由で、モーツアルト盤を聴く前報(27)からモーツアルト盤を聴く(28)までは 47 研 4718 経由で聴いてきましたが、Marantz7 タイププリ経由の場合は、管球らしいウオームトーンであり、ゲインは十分ながら、ボリュームを上げると残留ノイズが気になり、47 研 4718 経由では、クリアな音でありながら、ややゲイン不足気味のところがあります。

そこで今回は、次の再生経路を検討することにしました。

Garrard401→My Sonic Stage 1030→iPhono→TruPhase

Garrard401→My Sonic Stage 1030→iPhono(L/R2 台)→TruPhase

ターンテーブルアキュライザーやダンパーフレークやアースラインの使用は前報(16)と同様です。Garrard401、My Sonic Stage 1030、iPhono のアースラインには、Crystal E を接続しています。

試聴音源は、下記を使用しました。

Novalis 150040-1

モーツアルト London Night Music

Divertimento F-Dur

Divertimento B-Dur

Thomas Fueri 指揮 Camerata Bern

キングレコード SKA-104

愛と自然の歌

倍賞千恵子

3. Garrard 401 の再構成の試聴結果

まず 47 研 4718 でゲインを稼ぐ方法はないかと考え、Sonica DAC のライン入力を活用してみました。

Garrad401→47 研 4718→Sonica DAC→DA-3000→Brooklyn DAC+

カッティングレベルの低いモーツアルトの London Night Music を聴いてみましたが、一度 DSD に変換するためか、音が硬くなって Ortofon Royal N の持ち味が削られる印象です。

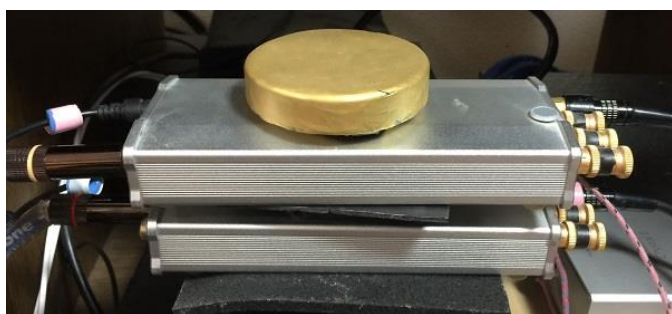
次にフォノイコライザーとして iFi オーディオの iPhono を使用してみました。この場合、昇圧トランスの My Sonic Stage 1030 を介して、iPhono は MM 入力とします。

Garrad401→My Sonic Stage 1030→iPhono→TruPhase

この状態でカッティングレベルの低いモーツアルトの London Night Music を聴いてみましたが、ノイズフロアーも問題なく、ゲインも確保されています。

そして、本命の iPhono(L/R2 台)にして試聴を行いました。

Garrad401→My Sonic Stage 1030→iPhono(L/R2 台)→TruPhase



モーツアルトの London Night Music は、ゲインも十分に確保されており、ノイズらしいものはありません。音質は、すっきり系の 47 研 4718 から、ソフトな音調にシフトしていますが、Marantz7 タイププリのようなウオームトーンとまではいきません。

倍賞千恵子は、ボーカルは明るく伸び伸びと、バックの伴奏もよく弾んでいます。

以上は、DECCA カーブで試聴しましたが、iPhono の利点は、DECCA、RIAA、Columbia カーブの切り替えができることであり、当面、この再生経路で Garrad401 の再生を行っていきます。

4. まとめ

Ortofon Royal N はゲイン不足などの問題がありましたが、ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレック、Crystal E などの効果と併せて、Ortofon Royal N らしいソフトな音調での細かい表現が活かす方法として iFi オーディオの iPhono を使用することが可能でした。

以上